



上峰町立上峰中学校だより

ちんぜい

No.4

発行日：令和8年7月 3日

発行者（文責）：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かに たくましく生きる生徒の育成 ー自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通してー
生徒会スローガン：オリジナル～全員の個性が輝く学校へ～

6月27日（土）、28日（日）に三養基・神埼地区の中体連が開催されました。各会場では、出場した選手だけでなく、応援の生徒たちも全力で試合に臨んでいました。保護者の皆さまには、早朝より送迎、応援ありがとうございました。このことについては、次回の学校だよりでお伝えいたします。今回は、保護者の方からヘルメットに関するご質問をいただきましたので、本校の考えをお伝えいたします。

ヘルメット番号の廃止について

本校では、今年度より自転車用ヘルメット後頭部に貼付していた大きな 4 桁番号を廃止しました。番号を廃止したことについて、「抑止力がなくなるのではないか」「問題行動が増えるのではないか」というご心配の声もいただいています。そのような不安を感じられることは理解しています。しかし、本校が目指しているのは、「番号で管理する学校」ではなく、「自ら考え、判断し、責任ある行動ができる生徒を育てる学校」です。ヘルメットの大きな番号は、生徒個人を遠くから識別できる仕組みでした。一方で、不特定多数の人が生徒を容易に特定できることへの配慮や、生徒のプライバシー、人権の視点から見直す必要があると判断しました。

もちろん、番号をなくしたからといって、安全指導や交通マナーの指導を弱めることはありません。交通安全教室や日頃の指導、地域の皆様からの情報提供、保護者との連携を通して、これまで以上に責任ある行動を育てていきます。また、「番号があるからルールを守る」のではなく、「自分自身の判断でルールを守る」ことこそ、中学生に身に付けてほしい力です。学校教育の目的は、管理を強めることではなく、社会に出た後も自ら正しく行動できる力を育てることにあります。今回の見直しも、その考えに基づいて行いました。

今後も、生徒の安全を第一に考えながら、人権を尊重し、主体性を育む学校づくりを進めてまいります。保護者や地域の皆様には、ご理解とご協力をお願いいたします。

ヘルメットは「学校のルール」ではなく、「命を守るため」のものです

本校では、自転車通学の生徒にヘルメットの着用をお願いしています。しかし、その理由は「学校のルールだから守りなさい」ということではありません。かつて、シートベルトの着用が義務化された当初、「面倒だ」「近くだから必要ない」と感じる人も少なくありませんでした。しかし、現在ではシートベルトは命を守るために欠かせないものとして、多くの人が当たり前に着用しています。法律やルールが目的なのではなく、「命を守る」という目的が社会に定着したからです。

ヘルメットも同じです。事故は「まさか」という瞬間に起こります。転倒した際に頭部を守るかどうかで、その後の人生を大きく左右することもあります。ヘルメットは事故を防ぐものではありませんが、命を守り、重いけがを防ぐための大切な備えです。学校では、安全教育の一環としてヘルメット着用を指導しています。しかし、本当に身に付けてほしいのは、「先生に言われるからかぶる」「ルールだからかぶる」という考え方ではなく、「自分の命は自分で守る」という意識です。その意識は、中学校を卒業した後も、生涯にわたって自分自身を守る力につながります。

ぜひご家庭でも、「学校で決まっているから」ではなく、「あなたの命が大切だから」という視点でお話いただければ幸いです。ヘルメットをかぶるという行為も、「自ら考え、判断して命を守る行為」です。本校はこれからも、そのような生徒の育成を目指してまいります。